

〔第132回銀行業務検定試験〕

「法務3級」団体優秀賞受賞

武蔵野銀行

～「地域No.1銀行」を目指して～

今回は、去る2015年10月25日(日)に実施された第132回銀行業務検定試験「法務3級」において団体優秀賞を受賞されました、武蔵野銀行へお伺いしました。

武蔵野銀行は、昭和27年に大宮(現さいたま市)に本店を置き、埼玉県地方銀行として県内の中堅・中小企業などの金融の円滑化を図ることを目的として設立されました。地域金融機関として、地元の人々に役立つことを企業使命に、地域経済・社会へ貢献されています。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、人事部キャリア開発室副グループ長の池田淳志さん、同調査役の能見悟史さんです。

●地域のお客様に役立つ銀行として

はじめに、武蔵野銀行に求められる役割について伺ったところ、「武蔵野銀行は、創業以来『地域共存』、『顧客尊重』を掲げ、埼玉県の地元銀行として地域のお客様に役立つことを企業使命としています。この企業使命を果たしていくためには、行員の能力アップが欠かせませんので、『人は財産』という考えのもと、全行を挙げて人材育成に取り組んでいます。また、当行には、「埼玉に新たな価値を創造する『地域No.1銀行』という長期ビジョンがあります。この長期ビジョンを実現するために必要な人材を、研修・OJT・自己啓発という3本柱で育成していこうと考えているところです」とおっしゃっていました。



▲武蔵野銀行 本店

●団体優秀賞受賞について

第132回銀行業務検定試験「法務3級」において、合格率53.72%、平均点61.54点の成績で団体優秀賞を受賞されました。

今回の受賞について感想を伺ったところ、「平成20年から『法務3級』の受験対策講座を実施し、合格率の向上に努めてきました。その結果として、団体優秀賞を受賞することができ、大変うれしく思います。今回の受賞により、行員の自己啓発意欲がさらに向上することを期待しています」とお話しくださいました。

●銀行業務検定試験の位置づけ

銀行業務検定試験の研修体系上の位置づけについて伺ったところ、「新入行員に対して、早い段階で銀行員として必要な知識を身につけてもらいたいという考えから、入行してから1年間のうちに『法務3級』、『財務3級』等4つの試験を受けることを必須としています。これらの試験に合格することは、昇格要件にもなっています。また、新入行員には、法務と財務の通信講座を受講させています。通信講座で体系的に学んだうえで、試験前に受験対策講座を受講させているので、より効果がでているのではないかと思います」とおっしゃっていました。

また、「通信講座を受講させているのは、正しい知識を身につけるという目的のほか、期限をしっかりと守り、日頃から勉強する習慣を身につけてほしいという意図があります。新入行員に対しては、フォローアップ研修のなかで添削課題の期限を守るように伝えています。社会人として期限は当然に守らなければならないものですので、通信講座の添削課題であっても、期限を守ることを徹底させています。新入行員は勉強漬けの日々を送っていますが、業務上必要な知識を身につけるために勉強し続けていく必要があります。勉強することを習慣づけてほしいと考えています」とお話しくださいました。

●行内育成塾MVPアカデミー

現在、特に注力している業務について伺ったところ、「お客様に対する資産活用・資産運用のアプローチを強化しています。そのため、特に1級FP技能士の資格取得に注力しているところです。銀行全体で確実に提案力を強化していくため、業務中である平日を使って集合研修を行っています」とおっしゃっていました。このような取組みの結果として、1級FP技能士試験の合格率は向上し、資格取得者数は順調に増えているとのことでした。

また、一昨年より行内育成塾「MVPアカデミー」を立ち上げ、様々なテーマについて体系立てた研修を実施しているそうです。上記の1級FP技能士取得に向けた研修も、「MVPアカデミー」のプログラムの1つとのことでした。他にも、若手企業担当養成講座や、女性力アップ講座、語学講座(英語・中国語)等、時代のニーズにあわせて幅広いプログラムを実施しているとおっしゃっていました。



▲人事部キャリア開発室副グループ長
池田淳志さん(左)、
同調査役 能見悟史さん(右)

●人材育成について

最後に、人材育成の方針について伺ったところ、「中期経営計画の中では、『人材ポートフォリオ計画』を作成しています。これは、経営戦略や将来動向を見据えた人員計画を策定し、最適な人材配置や人材育成を行っていく計画のことです。そのなかで、当行が将来伸び行くために、どのような人材が何名必要か具体的に設定しており、必要な人材を計画的に育てていくための研修カリキュラムを組んでいます」とのことです。

また、「取り巻く環境が変化し、ニーズが多様化している時代なので、それに対応できる人材が求められます。具体的には、『プロ意識に徹し、絶えず自己革新を続ける社会性豊かな行員』を育てていきたいと考えています。『プロ意識』とは、顧客尊重を基本に高度なスキルをもって、当行の業績拡大に貢献すること、『自己革新』とは、柔軟で新しい発想をもち、未知の分野にも積極果敢に挑戦すること、『社会性豊か』とは、銀行の公共的使命を理解し、郷土の発展に貢献することを意味しています。金融だけでなく、地域を取りまともめられるような人材を育成していきたいと考えています」とお話しくださいました。

(お忙しいなか、取材にご協力いただきました池田さん、能見さんには心から感謝申し上げます)